

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023 年 *12*月

「神のむすこ娘たち」「15章のたとえを読み終えて」「闘争のない改革?」「れんこん餅」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「15 章のたとえを読み終えて」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

6

Sons and Daughters of God

現代の真理

「キリストが戸をたたいておられる (VII)」

38

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「れんこん餅」

42

レシピ

お話コーナー

「愛のテスト (I)」

44

聖書物語

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話 : 0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話 : 0980-55-8136

発行日 2023 年 11 月 5 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

良心

目は敏感な良心、内なる光である。魂全体の霊的健全さは、物事を正しく見る目にかかっている。「目薬」である神のみ言葉が適用されると、良心はうずきを感じる。なぜなら、み言葉は罪について有罪を宣告するからである。しかし、良心のうずきは癒されるために、また神の栄光にひたすら目を注ぐために必要なものである。神の気高い道德的鏡の中で自分自身を見ている罪人は、神が彼を見るように自分自身を見るのである。そして、神に対する悔い改めと、われわれの主イエス・キリストに対する信仰を働かせる。… (SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 7 巻 965)

パウロにとって、…実はキリストを迫害していたのだと知ることは、なんとという屈辱だったことだろう。キリストの栄光の力は彼を滅ぼしてしまったかもしれないが、彼は望みを抱くとらわれ人であった。…彼は肉体的に盲目的にされたが、それは霊的視力が持てるようになり、彼の理解力を麻痺させ鈍くしていた昏睡状態から目覚めさせるためであった。… (SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 6 巻 1058)

「あなたの目が澄んでおれば、全身も明いだろう。」 (マタイ 6:22)

一つの目的に徹し、まったく神に献身することが、救い主のことばによって指摘された条件である。真理を識別し、どんな犠牲を払ってもそれに従おうという、いちずでゆるがない心を持つなら、あなたは神の光を受ける。ほんとうの敬虔さは、罪との妥協をすべて捨てる時にはじまる。その時、使徒パウロの言ったことばがあなたのことばとなるのである。「ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り…」 「わたしは…わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、…それは、わたしがキリストを得るためであ」る (ピリピ 3:13,14,18)。

しかし…「あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう」 (マタイ 6:33)。…

わたしたちは、自分を完全に神にささげる道を選ばないならば、暗闇の中にいるのである。…罪深い欲望…にふけるごとに、魂は神をきらうようになる。…

自然界と同じ法則が、精神の世界の法則でもある。暗闇の中に住む者はついに視力を失ってしまう。…そのときは、「あなたの内なる光」までが暗闇となる (マタイ 6:23)。すでに知っている真理でさえ曲げられてしまつて、そのためにかえって魂の盲目が増すばかりである。(祝福の山 112-115)

ラオデキヤ教会の人々はまったくの盲目ではなかった。もしそうであつたら、目薬は彼らの視力を回復して、キリストの真のご性質を見分けさせることが全くできなかったであろう。キリストは、あなた自身の自己満足を放棄し、あなたにとってどんなに愛着があろうとも、すべてを捨てて、…見えるようになるための目薬を買うようにと言われる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 7 巻 965)

15 章のたとえを読み終えて

みなさんは立ち止まって「救い」という言葉の意味を考えてみたことはあるでしょうか。わたしたちが知るかぎり、すべての人は救われることを望んでいます。しかし、それが実際に意味するところは何でしょうか。ミカエリス辞書によれば、救うという意味は、a) 救助する、救出する、自由にする：彼はわたしの命を救った。b) 保護する、防御する、隠す、保存する、c) あがなう、とあります。つまり、救いが存在するためには、その前に危険性の高い状況がなくてはならないということを意味します。不幸なことに、罪がこの世をつかんで以来、これがわたしたちの陥っている状況だということです。

しかし、それは決して神が望まれたことではありませんでした。このお方が人を創造されたとき、天と、自然と、隣人と調和して生き、悪がなく、危険もなく、死もなく生きるために創造してくださったのです。罪が入り込み、退化がもたらされてさえ、わたしたちを見捨てずに、かえってわたしたちを愛するあまり、ご自分の本来の計画へと回復し、人類を救助し、すべての人を救いたいと望んでおられます。

ルカ 15 章にあるたとえは、わたしたちがこれを理解できるよう助けてくれます。単純な描写でありながら重要な意味を伴いつつ、それらはわたしたちの実際の霊的な状態を省みさせてくれます。あなたは少なくともこれらの物語の一つに自分自身を見出すでしょうか。たとえそのものばかりでなく、イエスが語られた時に共にいた人々の反応とも重なりますか？

わたしたちの生涯のある点において、これらのたとえは、キリストと共にいるわたしたちの個人的な経験の描写であり、過去においても、これからそうです。そしてわたしたちはさまざまな方法で迷子になる可能性がありますから、一度ならず何度も起こるかもしれません。時にわたしたちは自分が失われていることに気づかないかもしれません。あるいは帰る道を思い出せなかったり、あるいは家に

帰る資格がないと思って、恐れ、恥じているままかもしれません。

しかし、神の愛は非常に大きく、知恵に満ちているので、たとえによってわたしたちの状態を示すだけでそのままにするのではなく、解決方法も提示するために残して下さったのです。そして、これらの物語のもっとも美しい部分がどこかご存知ですか?それはどれほど経験や事情が難しくても、いつもパターンがあるということです。

それぞれの場合において、そこにはどうしても探したいだけか、なくしてしまった価値あるものを取り戻したいだけかがいます。あきらめないだけかがいるのです。そのだけかがキリストであり、このお方こそ、わたしたちを罪に陥れようとするサタンの数えきれないほどの努力にもかかわらず倦むことなく、わたしたちがどこにしようと探すことをあきらめません。いつでもご自分の助け、保護、そして無限の愛を、必要なたびに何回でもさし出す用意があるのです。

そして羊が見つかったとき、なんという喜びがあったことでしょう!銀貨がもはやなくなった銀貨ではなくなったとき、なんと幸福だったことでしょう!子供が家に戻ってきたとき、どれほど心がおどったことでしょう!すべてのたとえの中で、失われたものが救助されたとき、祝いと祭りがありました。そのように罪人が、わたしたちの愛する救い主の招きを受け入れるとき、天では喜びがあります。これ以上延ばさないようにしましょう。神の助けと導きを求めましょう。このお方の招きを受け入れ、みんなでこの祝いに共に参加しましょう。

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



12月

私たちは嗣業を受ける

今は印する時である

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。」(黙示録 7:3)

今や、サタンはこの印する働きの時に当たり、あらゆる手段を用いて神の民の心を現代の真理から引き離し、彼らを迷わせようとしている。わたしは、神が悩みのときに神の民を守るために、彼らの上にかけておられる覆いを見た。そして、真理の側に立つ心の清い者は、全能の神の覆いに隠されるのであった。サタンはこれを知っていた。そして大いなる力をもって働き、できるだけ多くの人々の心を迷わせ、真理に堅く立たないようにしていた。……サタンはちょうどこの印する働きの時において、神の民の心をそらし、欺き、神から引き離そうとしているのをわたしは見た。ある人々は現代の真理に堅く立っていないのをわたしは見た。彼らは真理にしっかりと立っていなかったので、彼らのひざは震え、彼らの足は滑っていた。

サタンは印する働きが終わり、神の民の上に覆いがかけられるまで、彼らをそのままの状態にしておき、最後の七つの災いが下るときに、神の燃える怒りを彼らが避けることができないようにさせようと、あらゆる策を弄していた。初代文集 107～109

私たちは世という暗闇から、神の驚くべきみ光に連れて来られた。もし私たちが神のかたちを受け入れるなら、また私たちの魂があらゆる道徳的な汚れから清められるなら、神の印が私たちの額に押され、私たちはこの地上歴史の終りの場面への準備ができる。しかし私たちには浪費する時間はない。私たちが学ぶ心をもってキリストの生涯を研究すればするほど、ますますキリストのようになる。手紙 135, 1897 年

印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、私たちの召しと選びとを確かなものにする時である。初代文集 130

主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ

「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。」(イザヤ 55:6)

神を求めるには遅すぎるその時が近づいている。だから、猶予の期間が閉じて、私たちの生涯の働きがみな終わる時、自分たちはどのように感じるだろうか、私は考えている。私たちはどのような気持ちで過去を振り返るのだろうか。その時、神に仕える努力がもっと熱心であったなら……と思うのであろうか。神があらわされたみ旨にもっと調和して生きていればと願うのだろうか。その時私たちは忠実な僕とみなされるのだろうか。「事はすでに成った」というキリストのみ声を、今この瞬間に聞くとしたら、私たちはどうであろうか。……

私たちの上に置かれている厳粛な責任を考えて、その責任を果すためにしなければならないことを、私たちが理解することができるよう、未来を熟考しよう。……最後の日の厳粛な集まりの中で、全宇宙の聞いている中で、罪人に対する有罪判決の理由が読みあげられる。両親は初めて、子供たちの秘密の生涯がどのようなものであったかを知る。子供たちは、自分たちが両親に対してどれほどたくさん悪いことを行っていたかが分る。心の秘密や動機があらわれる。隠されていることが明らかにされるからである。審判に関する厳粛な事柄をあげていた人々は、その審判の恐ろしい現実と直面する時静かになる。神のみ言葉を軽視していた人々は、その時そのみ言葉を語られたお方に会わなければならない。私たちは審判の日に関係なく生きることができない。なぜなら随分遅れているとしても今はほとんど戸口のところまで近づいており、すみやかに来るからである。……

これらの厳粛な事柄を熟考する時、青年たちよ、あなた方は利己的な罪深いふるまいを止めて、すなわち悪い行ないを止めて、良い行ないをすることを学ばなければならないことに、気がつかないのだろうか。あなたの品性を滅びへと形造るか、永遠に続く至福のために形造るかは、あなた自身の行動方針にかかっている。……

「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ」という命令に、あなたは聞き従うのだろうか。ユース・インストラクター
1892年7月21日

キリストを通して神の子、相続人となる

「したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。」（ガラテヤ 4:7）

ガラテヤ人たちは偶像礼拝をやめるように導かれたが、使徒たちが教えを説いているうちに、罪の束縛からの自由を約束している使命をよろこぶようになった。パウロとその仲間の働き人たちは、キリストのあがないの犠牲を信じる、信仰による義についての教理を宣べ伝えた。彼らは、キリストが墮落した人類の救いような状態をご覧になり、みずから神の律法に従う生活をなさって、不従順の罰をお受けになることにより、彼らをあがなうために来られた方であると教えた。そして十字架の光により、これまで真の神を知らなかった多くの人々が、み父の愛の偉大さを理解しはじめた。こうしてガラテヤ人たちは「父なる神」と、「わたしたちの父なる神の御旨に従い、わたしたちを今の悪の世から救い出そうとして、ご自身をわたしたちの罪のためにささげられた」「主イエス・キリスト」についての重要な真理を教えられた。彼らは「聞いて信じたから」神のみ霊を受け入れ、「キリスト・イエスにある信仰によって、神の子」となった。

ガラテヤ人の中にいたころの自分の生活態度についてパウロは、のちになって「兄弟たちよ。願う。どうか、わたしようになってほしい」と言うことができた。彼のくちびるは祭壇からとった燃えている炭に触れていたもので、彼は身体の欠陥を超越し、イエスを罪人の唯一の望みとして示すことができた。彼の言葉を聞いた人々は、彼がイエスと共にいたことを知った。天来の力をさずけられて、彼は霊によって霊のことを解釈し、サタンの拠点を打ちくだくことができた。彼が神のひとり子イエスの犠牲に表されている神の愛を示すと、人々の心はくだかれて、多くの者が「わたしは救われるために、何をすべきでしょうか」という気持ちにまで導かれた。……十字架は私たちを神に和解させ、私たちを神に近づかせる。父親の愛の優しいあわれみをもって、神は、人類を永遠の死から救うためにみ子が耐えられた苦悩をご覧になり、愛する御子によって私たちを受け入れてくださるのである。患難から栄光へ上巻 223～226

流れのほとりに植えられた木のようになる

「このような人は流れのほとりに植えられた木の、時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える。」(詩篇 1:3)

あらゆる道に危険が待ちかまえており、勝利者となる者には、まことに神の都で歌うための勝利の歌がある。ある人には、たえず抑える必要のある品性の強い特徴がある。もしも神のみ霊のご支配のもとに続けるなら、これらの特徴は祝福となる。しかしそうでないなら、呪いであることが分かる。今流行の波に乗っている人々が軽薄にならないとしたら、それは憐れみの奇跡である。もしもこの人々が、同じような立場にいる多くの人々のように、自分自身の知恵に頼るなら、その知恵は愚かなものであることを証明するであろう。しかし彼らが自分自身を、神のみ働きに利己心なく捧げ、原則からわずかとはいえども決してそれなければ、主は不滅のみ腕で彼らを抱き、力強い助け手であることを証明される。……

現代は、神のみ働きにおいて、貴重なタラントを持っているどの人にとっても危険な時代である。なぜならサタンが絶えずそのような人に誘惑しかけながら、その心を自尊心と野心でいっぱいにしてしようとしているからである。だから神がこの人を用いたいと思われる時、彼は独立心が強く、自信があり、一人で立つ能力があると感じてしまう場合が非常に多い。……

祈りと努力、努力と祈りは、あなたの生涯の務めである。力と賛美はみな神に当然帰すかのように祈らなければならない。義務はすべてあなた自身のものであるかのように労しなければならない。あなたが力を望むなら、持つことができる。その力はあなたが求めるのを待っている。ただ神を信じて、み言葉のうちにこの方を受け入れ、信仰によって行動しなさい。そうすれば祝福を受ける。……へりくだって信頼し、心の悔いている人々を、神は受け入れ、その祈りを聞かれる。そして神が助けて下さる時、すべての障害を克服する。……日毎の嘆願で得られる天からの祝福は、魂にとって生命のパンとなり、流れのほとりに植えられた木のように、道徳的また霊的力を増し加えるものとなる。教会への証 4 巻 538, 539

心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」(ペテロ第一 4:7)

今日のイスラエルに対する勧告は、「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」「若い男にも、同じく万事につけ、慎み深くあるように、勧めなさい。あなた自身を良いわざの模範として示し、人を教える場合には、清廉と謹厳とをもってし、非難のない健全な言葉を用いなさい。そうすれば、反対者も、私たちについて何の悪口も言えなくなり、自ら恥じ入るであろう。奴隷には、万事につけその主人に服従して、喜ばれるようになり、反抗をせず、盗みをせず、どこまでも心をこめた真実を示すようにと勧めなさい。そうすれば、彼らは万事につけ、私たちの救い主なる神の教えを飾ることになる」ということである。敵に抵抗しなさい。そのうれしがらせる誘導や提案にそのかさされてはならない。自分自身の有限な強さではなく、主の強さ、またその力強いみ力にあって、強い者であるというのが人間の務めである。……

キリストは「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」と仰せになった。あなたが自分自身の有限な力で、することのできる決心はただ砂で作った縄のようなものである。しかし、あなたが自分自身と魂、体また精神を神に捧げつつ、心から神に祈るなら、神の武具で身を固め、魂をキリストの義に向かって開く。そしてこれ、すなわちキリストの着せられた義だけが、あなたを悪魔の策略に対抗して立たせることができるのである。どの魂の働きも、主イエス・キリストの勢いと力のうちに、敵に抵抗することである。そしてみ約束によると、悪魔は私たちから逃げる。しかし、すべての者に、自分たちが危険であること、聖句の条件に従わないかぎり、安全の保証はないことに気づかせなさい。主は、「神に近づきなさい」と仰せになる。どのようにしてであろうか。それはあなた自身の心を綿密に熱心に探ることによってである。子供のように、心からへりくだって神に頼ること、イエスにあなたの弱さを知っていただき、あなたの罪を告白することによってである。このようにしてあなたは神に近づくことができ、神もあなたに近づいてこられる。ユース・インストラクター 1894 年 2 月 8 日

正しく信心深く生きる

「慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、祝福に満ちた望み、すなわち大いなる神、わたしたちの救い主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むように」(テトス 2:12、13 英文)

私たちがイエスと共におり、この方から学んだことを世の人々が知ることができするために、私たちが清い生涯を送ることの重要性について私たちの心に深く印象づけられることを願う。クリスチャンの価値は、華々しいタラントや身分の高い生まれ、素晴らしい力にあるのではなく、清らかな心、すなわち純潔で精錬された、神のかたちを反映する心にある。魂を麗しくするのは、私たちのためにご自分の生命を与えて下さったお方のご臨在である。……力のある人というのは祈りの人である。……

あなたの時間と注意をつまらないことに使い尽くしてはならない。神のみ言葉の栄光に満ちた主題を心にとめなさい。これらの主題を研究すると、終りの時の試練と困難を通して自分を支える力強さを、あなたに与え、白い衣を着てキリストと共に歩み続ける者とする。あなたが価値ある者だからである。神のみ言葉を研究し、それに従うことによって、私たちは霊的導きと教えを自分のものにする。それらによって自分自身のうちにある最も悪い形の悪を神の律法の支配の下にもたらすことができる。もしこのみ言葉の教えが、私たちの生活を支配する感化力を及ぼしてさえいけば、思いと心がその抑制する力のもとにおかれてさえいけば、現在は教会や家庭に存在する悪が、場所を見出すことはないのだが。改心した家族の上に、最も清い祝福がくだり、これらの家庭から、彼らを神の民とする真理の力の感化力が流れ出る。

今は自己放縦やあらゆる自尊心、利己心を捨て去るために目を覚まして祈る時である。現在多くの人が浪費するよりも、もっと悪いことに使っている貴重な時間を、瞑想と祈りに費やすべきである。……

戴冠式の日に、キリストは、しみもしわもそのたぐいのものが少しでもある者はお認めにならない。しかしご自分の忠実な者たちへは、不死という栄光の冠をお与えになるのである。ビュー・アソド・ハルド 1904 年 11 月 24 日

傷のない者

「彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。」(黙示録 14:5)

罪は憎むべきものである。それは数多くの天使の道徳上の美しさを損なった。この罪は私たちの世界に入ってきて、人の中にあった神の道徳的かたちをほとんど消してしまった。しかし神は大いなる愛をもって、人が誘惑者に渡してしまった立場を再び取り戻すことができるようにと方法を備えられた。キリストは人類の頭として立ち、私たちのために完全な品性を作り上げるためにこられた。……「神の子となる力を彼らに与えるために、多くのものを受けられた。」……

主はご自分の血で買われた嗣業に何を要求されるのだろうか。全人格の清め、すなわちキリストの持っておられる純潔のような純潔、神のみ旨への完全な一致である。……聖都へは、汚れた者、うそをつく者はだれ一人入れないのである。……

私たちは聖なる主の姿をあらわすことができる。私たちは霊的生活の科学を知ることができ、私たちの造り主をあがめることができる。……

人の最高の思想以上の思想に到達できるというのが、ご自分の子らに対する神の究極的な目標である。神は、私たちの思いが澄んで、気質が優しく、愛に限りがないことを望まれる。その時知識を越える平安が、私たちの接するすべての人々を祝福するために、私たちから流れでる。私たちの魂を取り巻く雰囲気はすがすがしいものとなる。……

多くの者が指の先ほどの信仰にしがみついている。救い主の救いを得させる力について語るために費やすはずの貴重な時間が、多くの者によって、悪いことを語ることに費やされている。彼らが断固として変らないかぎり、量の足りないことがあらわれる。彼らの品性が完全に改変しないかぎり、決して天国へ入ることはない。……真に改心した人には、他人の欠点について考えたり話したりする傾向がない。その人の唇は清められており、神の証人として、キリストの恵みが自分の心を改変したことを証する。……悪いことを考え、また語ろうとする誘惑に打ち勝つ人々だけが、天国に入るのである。レ・ユー・アソ・ヘラルド 1904 年 11 月 24 日

信仰を通して世に勝つ

「なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。」(ヨハネ第一 5:4)

今日サタンは、私たちが彼に忠実であるなら、そのお返しとして世の王国を提供するという、キリストに示したのと同じ誘惑を提案する。しかしイエスを自分の信仰の創始者であり完成者として見る者にとって、サタンの誘惑は何の力もない。私たちと同じように、あらゆる点において誘惑を受け、しかも罪を犯されなかったお方の徳を、信仰によって受け入れる者に、サタンは罪を犯させることはできない。

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛してくださった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」自分の罪を悔い、神のみ子の生命という賜物を受け入れる人は、打ち負かされることはない。信仰によって神性をしっかりとつかむことにより、その人は神の子となる。彼は祈り、信じる。誘惑や試練がきたとき、キリストが与えるために死なれた力を彼は叫び求め、キリストの恵みを通して勝利する。罪人はみなこのことを理解する必要がある。彼は自分の罪を悔い改め、キリストの力を信じて、罪から自分を救い、また自分を罪から離しておくための力を受け入れなければならない。ビュー・アソド・ハラルド 1909年1月28日

クリスチャンは罪深い習慣を持ち続け、自分の品性の欠点を抱き続けるのではなく、神のかたちに型どって、自分の思いを新たにして戴かねばならない。あなたの欠点がどのような性質のものであっても、主のみ霊はあなたにそれを気づかせることができ、それに打ち勝つための恵みを与えて下さる。キリストの血の功績を通して、あなたは打ち勝つ者となることができ、勝ちえて余りある者となる。

.....

真理が魂の中に入り込むのを許さなければならない。そうすれば真理は品性を清める働きをする。生涯を精錬し、高尚にし、イエス様がご自分を愛する者のために用意に行かれた住居に、あなたが入るのにふさわしい者としてくれる。

天国は私たちにとって何よりも価値のあるものである。私たちが天国を失うなら、すべてを失うのである。原稿 51 日時未詳

報いを携えて来られる

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。」(黙示録 22:12)

この地上での私たちの働きはまもなく終わり、各々は自分自身の働きに応じて報いを受ける。私は、聖徒の報い、不死の嗣業を示され、真理のために最も耐え忍んだ人々は、自分たちが困難な時を過ごしたとは考えず、天国は何と安いのだろうと考えるのを見た。教会への証 1 巻 381

一日一日、果さなかった義務や無関心、利己心、欺き、詐欺、ごまかしなどの記録を残している。どれほど多くの悪い行為が最後の審判のために積み上げられていることだろうか。キリストが来られる時……これがあらわれる時どうなることであろう。教会への証 2 巻 160

あらゆる良い行為、また悪い行為が他の人々に及ぼす影響は、心を探られる方、あらゆる秘密を知っておられる方によって明らかにされる。そしてその報いは、その行動を引き起こした動機にかかっているのである。教会への証 2 巻 520

キリストの来臨は近づいてすみやかに来る。働く時間が短いのに、男女たちは減びつつある。自分を支配するために、私たちは神の改変する力を必要としている。それによって私たちが減びゆく世界の必要を理解するためである。あなたに対する私の使命は次の言葉である。備えをしなさい。主に会う備えをしなさい。あなたの灯りを整え、真理の光を小道やかきねのあたりに輝かせなさい。世は万物の終りが近づいているという警告を受けなければならない。

私たちの心が和らげられ、働きに不快な精神を持ち込まないように、私たちには神の聖なるみ霊のご臨在が必要である。聖霊が私たちの心を完全に占有して下さるようには私は祈る。勧告を求めて神を見つめている神の子のように、又、示された所どこでも神のご計画を実行する準備をしよう。神はそのような民によって栄光を受けられる。そして私たちの熱心さを目撃する者はアーメン、アーメンと言うのである。教会への証 9 巻 105 ～ 108

守り通し、準備をする

「だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。」(黙示録 3:3)

「だからあなたがどのようにして受けたか、また聞いたかを思い起こして、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。」新しく生まれた者は、天の光を受け入れてどれほど喜び、嬉しかったかを覚えており、自分の幸せについて、だれにでもどれほど熱心に話すべきであることを覚えている。……

「守り通しなさい。」これはあなたの罪に固執しなさいという意味ではなく、神がみ言葉の中で与えて下さった慰め、信仰、希望をしっかりと保ちなさいということである。決して失望してはならない。失望した人は何もできない。サタンはあなたを失望させようと努力しており、神に仕えても無駄であって報いはない。この世の快楽や楽しみを持つのは道理にかなったことだと言い続けている。しかし「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、何の得になろうか。」あなたは来世を犠牲にして、世的な快楽を持つことはできる。しかしあなたにはそのような代価を払う余裕があるのだろうか。私たちは「守り通し」して、天から受ける光すべてに従って生きなければならない。なぜだろうか。私たちが永遠の真理をつかんで、神の愛を十分に知らない人々に光を伝えることによって、神の助け手として行動することを神が望んでおられるからである。あなたが自分自身をキリストに捧げる時、み父とみ子と聖霊、すなわち天の偉大な三位のお方のご臨在のもとに誓約をするのである。この誓約を「守り通し」なさい。……

敵はキリストのみ手から、この方の約束を単純に信頼している者を、決して引き離すことはできない。もし魂が信頼し、従順に働いているなら、心は天の印象を受けやすくなり神の光が差し込み、理解力を啓発し続ける。私たちはキリスト・イエスにあつて、何という特権にあずかっているのだろうか。原稿 92,1901 年

私たちは主の来臨を期待して、油断なく見張っていなければならない。……一瞬一瞬を忠実に用いなければならない。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」ビュー・アンド・ハルト 1903 年 2 月 3 日

清い生活で主の到来を早める

「神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。」（ペテロ第二 3:11、12）

キリストが早く来臨されることを待ち望んでいると公言する多くの人が、この世に従って、神の是認よりも、周りの人々の賞賛を熱心に求める。……

これらの自称クリスチャンの多くは、世の人々と同じような服装、会話、行動をしており、彼らがクリスチャンであると分るのは、ただクリスチャンであると告白するからである。キリストを待ち望んでいると告白しても、その会話は天の事柄についてではなく、世のことについてである。

「神の日の到来を熱心に待ち望み、早めたい」と公言する者「は極力、きよく信心深い行いをしていなければならない」（ペテロ第二 3:11、12）。

天への道は険しい。いばらやとげが道にある。しかし私たちは、栄光の王であるイエスが私たちの前にかつて歩まれたことを知っているのです、その荒々しい道を喜んで歩むことができます。私たちは、自分がそのみ足の跡を踏み従うことができ、この方の苦しみについても共にあずかって、ついにはその栄光にあずかることができるので喜ぶ。

主を待ち望んでいると公言する人々によってすら、非難が私にあびせられるとしたらどうであろうか。……イエスがご自分の民の嘲りと嘲笑に耐えられたのに、私は不満をもらすのだろうか。…いや、不平は言わない。むしろキリストのために苦しむ価値があるとみなされたことを喜び、天で私に報いが与えられることを非常に嬉しく思う。ただ栄光のうちに嗣業を受けさせて下さればそれで十分である。……

言葉が意味する通りのクリスチャン（キリストに似た者）になる努力をしよう。私たちの服装や会話や行為が、栄光の望みであるキリストが内住しておられることを、またイエスの祝福にみちた栄光の出現を待ち望んでいることをあかししよう。……私の愛情、関心、宝はみな輝く来世にあり、美しい王にお目にかかることを切望する。ビュー・アッド・ハルド 1852 年 6 月 10 日

ご自分の民の保護者、 正しい裁き主として帰ってこられる

「まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに…あろうか。」(ルカ 18:7)

神のみ言葉から大いなる光が輝き出ているこの時に、暗い不可解なことを昼間のようにはっきりとさせるのは、それによって益を受けるすべての者、義の太陽の明るい光に思いと心を開くすべての者への、恵みと希望と保証の日である。

.....

世界中の至る所に、預言の言葉を学ぶ勤勉な生徒がいる。彼らは、聖書を探ることによって光を得、ますます大いなる光を得ている。これは、すべての国民、部族、民族にあてはまる。この人々は、最もはなはだしい過ちから抜け出て、機会と特権とは持っていたが、それを重んじなかった人々の地位を占める。……私たちは今自分で選んでおり、まもなく神に仕える者と仕えない者を見分ける。

.....

様々な時に主はみ業についてのご自身の方法を知らせてこられた。……そして危機が来た時、主はご自身をあらわし、サタンの計画による業に介入された。たびたび国民や家族、また個人個人に危機が訪れるという事態を許されたが、それによってご自分の介入に注意が向けられるためであった。その時主は、ご自分の民をささえ、民に対する非難の不当性を主張される神が、イスラエルにおられるという事実を知らされた。

エホバの神に対する反抗的態度がほとんど全世界に広がり、ご自分の民が同胞によって苦しみ圧迫される時、神は介入される。民の熱烈な祈りは応えられる。なぜなら神は、民が全心全霊を込めてご自分を求め、救い主としてご自分に寄り頼むことを喜ばれるからである。このお方はご自分の民のためにこれらのことをしようとしておられる。……み約束は「主は日夜叫び求める選民のために正しいさばきをしてくださ」るのである。世界総会冊子 1900 年 1 期

私たちにとって聖所となられる

「それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。」(詩篇 27:5)

誠実で忠実なクリスチャンには、世の知らない喜びと慰めがある。それは彼らにとって神秘である。クリスチャンの希望は不滅で栄光に満ちている。幕の内に入り行かせるものであり、魂を安全にし不動にする錨である。だから神の怒りの嵐が、不信心な者にくだる時、この希望は彼らを見捨てず、彼らは幕屋の奥にかくまわれる。ユース・インストラクター 1854 年 5 月

私たちの前には悩みの時がある。神の判決が世に下ろうとしている。地上の国々は震えおののく。至る所に苦難や当惑があり、人々の心は恐怖のゆえ気を失う。私たちはその日にどうするのだろうか。地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動くが、私たちが神に信頼するなら、神は私たちを救い出される。「いと高き者のもとにある隠れ場に住む人」は「全能者の陰にやどる人」である。「あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災いはあなたに臨まず、……これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道であなを守らせられるからである。」レベ・アンド・ヘラルド 1887 年 3 月 15 日

キリストは争闘の最後をご覧ください。戦いはますます激しくなる。まもなく地上のすべての物に対する権利を持つておられる方が来られ、それを所有される。この世のあらゆる混乱、あらゆる暴力と犯罪はキリストのみ言葉が成就しているのであり、主の来臨が近いというしるしである。来臨の日に、キリストは道であり、真理であり、命であるご自分に従ってきた人々を保護される。ご自身を彼らの聖所にすると誓われたからである。「私が地をその罪惡から清めるまで、しばらくの間安全な避難所に入って隠れていなさい」と、彼らに仰せになる。手紙 264, 1903 年

猶予期間はすみやかに閉じようとしている

「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。」（黙示録 22:11）

命の書に自分の名前を記されていたい者はみな、自分の猶予の期間がほとんど残っていないこの時に、罪を悲しみ、真の悔い改めをすることによって、神のみ前に魂を悩まさなければならない。それには心を深く誠実に探らなければならない。非常に多くの自称クリスチャンがほしいままにしている軽薄で不真面目な精神は捨て去らねばならない。主導権を求めて争う悪の傾向を抑制したいと願うすべての人の前には真剣な闘争がある。備えの働きは個人的な働きである。私たちはグループで救われるのではない。一人の人の純潔と献身が、これらの資質が欠けている他の人々の分を埋め合わせることはない。……一人一人がテストされ、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいないことがわからなければならない。

贖罪の最後の働きに関する光景は厳粛である。その中に含まれている利害は重大である。審判は今日の至聖所で行われている。……神の畏るべきみ前に、私たちの生涯が走馬灯のように審理される。……

調査審判の働きが閉じられる時、すべての人の運命は生か死に決まっている。猶予期間は主が天の雲に乗って現われる少し前に終る。……目を覚まして見張っていることに疲れて、世の魅力に心を向けた人々の状態は危険に満ちている。実業家が利益の追求に心を奪われ、快楽を愛する者が放縦を求め、流行を追う娘が装飾品を整頓している間に、全地の審判者が、「あなたは、はかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた」と、判決を下されるその時となるであろう。ビュー・アンド・ヘルド 1905 年 11 月 9 日

真夜中に来る盗人のように、黙って、気づかれずに、すべての人の運命を定め、有罪人に対する憐れみの申し出が最終的に引きあげられる決定的な時が来る。「だから目を覚ましていなさい。……急に帰ってきてあなたがたの眠っているところを見つけたかもしれない。」ビュー・アンド・ヘルド 1905 年 11 月 9 日

キリストは私たちを婚宴に招かれる

「小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである。」(黙示録 19:9)

主イエスはご自分の憐れみと豊かな恵みをあらわして、人の心を試みられる。主は驚くばかりの改変をなし、サタンの詭弁や惑わしに対する堅固な要塞として神の政府の律法があらわされるので、神とその律法に敵対して一致した悪の同盟者全員と共に、意気揚々と自慢していたサタンは驚く。彼にとってこの人々の心は理解できない神秘である。人間と協力するよう命じられた神の天使、セラピムやケルビムは、かつては怒りの子であった墮落した人間が、キリストの訓練を通して品性を神に似た者へと発達させながら、神の息子娘となり、天の業と喜びに重要な役割を果たす者となるのを、驚きと喜びをもって見る。

キリストは、ご自分が贖い、買い取られた者たちから、栄光という大いなる益を受けることができるようにと、ご自分の教会に十分な便宜を与えてこられた。キリストの義を授けられている教会は、この方の憐れみや愛、恵みという富が、完全にまた最終的にあらわれるべき宝庫である。み父の愛が、ひとり子であるご自身に対してと同様、私たちにも大いなるものであり、ご自分がおられる所に私たちが共におり、キリストとまたみ父と永遠に一つであるようにとの仲保の祈りの中での宣言は、天軍を驚かせ、また大きな喜びとした。豊かに満ちあふれた聖霊の賜物は、地獄の力が打ち勝つことのできない、火で取り囲んだ壁のようにご自分の教会を包んでいる。民の汚れのない純潔としみのない完全さのうちに、キリストは民をご自分の苦難、へりくだり、またご自分の愛の報いとして、またご自分の栄光—キリスト、あらゆる栄光を放つ大いなる中心—を補足するものとしてご覧になる。「小羊の婚宴に招かれた者はさいわいである。」牧師への証 18,19

キリストは力と大いなる栄光をもって来られる

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。」(マタイ 25:31)

人の子が天の雲に包まれて再臨される光景を人間の言葉では描写することができない。……キリストは、永遠の昔から着ておられた光の衣をまとって来られる。天使が同行する。万の幾万倍の天使がこのお方につき従う。眠っている死者を墓から呼び出すラッパの音が聞こえる。キリストのみ声が墓に響きわたり、死者の耳をつらぬいて、「墓の中にいる者たちがみな……でてくる。」ビュー・アンド・ヘルド 1899年9月5日

キリストは力と大いなる栄光をもって来られる。キリストは、彼ご自身の栄光と父なる神の栄光とをもって来られる。そして聖天使たちが、彼につき従って来る。全世界が暗黒に閉ざされているときに、聖徒たちのすべての住居には光がある。彼らは、キリストの再臨の最初の光を認める。彼の華々しいお姿からは、汚れない光が輝き出る。そして、贖い主キリストは、彼に仕えたすべての人々からあがめられる。悪人たちは逃げるのであるが、キリストに従った人々は、彼のみ前で喜びに満ちるのである。国と指導者下巻 320

ちょうど、いわずが東から西にひらめき渡るように、人の子も現われるであろう。」彼には、天の全軍が従ってくるのである。……「また、彼は力と大いなるラッパの音と共に御使いたちをつかわして……四方からその選民を呼び集めるであろう。」……

キリストがご自身で来られるまでは、神の民はみ国を受けることができないのである。……人間の現在の状態は、死ぬべきものであり、朽ちるものである。しかし、神の国は、朽ちず、永遠に続くものである。それゆえに人間は、現在の状態のままでは、神のみ国に入ることはできない。しかし、イエスが来られるときに、彼はご自分の民に不死をお与えになる。そして、これまではただ相続人でしかなかった彼らに、み国を継ぐようにと言われるのである。各時代の争闘下巻 7,8

地上で忠実な者は救われる

「また、彼は大きいなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。」(マタイ 24:31)

勝利の上にもなお勝利を得ようとして、馬に乗って出かけるお方の力によって、弱く有限な人間は勝利を得ることができる。原稿 151,1899 年

ユダのししは、神の恵みを拒む者には恐ろしいものであるが、従順で忠実な者には神の小羊となる。神の律法を犯した者にとっては恐怖と怒りを表している火の柱は、神の十戒を守る人々にとっては光とあわれみと救出のしるしである。反逆者を打つ強い腕は、忠実な者を救い出す強い腕になる。忠実な者はだれでも救われる。「彼は大きいなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう」。

世界の人口に比べれば、神の民は、常にそうであったように、ごく小さな群れであろう。しかし彼らが、みことばに示されている真理に立つならば、神は彼らの逃れ場となって下さる。彼らは全能の神の広い盾のもとに立つのである。神は常に多数を占めておられる。最後のラッパが死人の獄屋に響きわたり、義人が勝利して、「死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか」と叫びながら出て来て、神とキリストと天使たちと、そしてすべての時代の忠実で真実であった者たちと共に立つとき、神の子らははるかに大多数になるのである。

.....

預言者ヨハネは、聖なる幻の中に神の残りの教会の究極的な勝利を見た。彼はこう記している。「わたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに……うち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、『全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大きいなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります』」。患難から栄光へ下巻 295,296

キリストにあって死んだ人々が まず最初によみがえる

「すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、」（テサロニケ第一 4:16）

生命の与え主は、第一の復活で買い取られた人々を呼び出される。そして、最後のラッパが鳴り響き、おびたしい群衆が永遠の勝利を得るために現われる。その勝利の時まで、眠っている聖徒はみな、安全に守られ、尊い宝石のように見守られる。この聖徒は神にその名によって知られているのである。彼らが生きている間、内住された救い主の力によって、また、彼らが神性にあずかる者であったので、彼らは死から連れ出される。手紙 65a、1894 年

「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、……出てくる時が来るであろう」と、キリストは仰せになった。その声は死者の住まい全体に鳴り響かねばならない。そして、イエスにあって眠っている聖徒はみな目覚め、自分の獄屋を去るのである。その時私たちがキリストの義によって受けていた品性の徳は、私たちを最高の真の偉大さに結びつける。レビュー・アソッド・ヘラルド 1898 年 9 月 20 日

眠っている聖徒の勝利はよみがえりの朝、光り輝くであろう。……生命の与え主は墓から出てくるすべての者に不死を与えて報われる。ユース・インストラクター 1898 年 8 月 11 日

よみがえった群れがいる。最後の思いは死とその苦しみであった。彼らにあった最後の思いは墓と墓石のことであったが、今彼らは「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか」と宣言する。……彼らはここ地上に立つて、不死という仕上げの一筆が彼らに加えられ、空中で主にお会いするために上って行く。……天使の列が両側に並んでいる。……その時天の聖歌隊が勝利のしらべを歌い始め、二列に並んだ天使たちがその歌を引き継いで、贖われた群れは、地上でその歌を歌っていたことがあり、また歌っていたかのように、これに和す。ああ何という美しい調べであろう。そこには不調和な音はみじんもない。あらゆる声ばほふられた小羊こそは賛美を受けるにふさわしい」と叫ぶ。主はご自分の魂の苦しみにより、光を見て満足される。原稿 18,1894 年

永遠にキリストと共にいるために引き上げられる

「それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。」(第一テサロニケ 4:17)

イエスは来られる。しかし初臨の時のように、ベツレヘムの幼な子のようにではなく、エルサレムヘロバに乗って入ってこられ、その時弟子たちが大声でホサナと叫んで神を賛美した時のようにでなく、み父の栄光のうちに、地球への道につき従う全天使を伴って来られる。全天に天使がいなくなる。待ちわびている聖徒たちは、イエスがオリブ山から昇天された時、「ガリラヤの人たち」がしていたように、このお方を求めて天を見つめている。それから聖なる者だけ、完全に柔和な型である方に従っていた者は、イエスを見た時、歓喜にあふれて、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわれわれを救われる」と叫ぶ。そして彼らは「終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして」変えられる。このラッパの響きは、眠っている聖徒たちを目覚めさせ、土の寝床から呼び出す。聖徒たちは栄光にみちた不死でおおわれ、死と墓に勝利して、勝利!勝利!と叫んでいる。変えられた聖徒たちは空中で主に会うために、共に引き上げられ、決して二度と愛する人々と別れることはない。レビュー・アンド・ハールド 1852年6月10日

キリストに忠実に従った人々にとって、キリストは日毎の伴侶、親しい友であった。彼らは、神との密接な接触、絶えざる交わりを保ってきた。彼らの上に主の栄光がのぼった。イエス・キリストのみ顔にあらわれた神の栄光の知識の光が、彼らの中に反映したのである。今彼らは、荘厳な王の大いなる輝きと栄光に浴して喜ぶのである。彼らは、心に天を持っているから、天との交わりに入る準備ができているのである。……

彼らのあがないの近づいたことを喜んで、花婿を迎え、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」と言うのである。キリストの実物教訓 397

すべての国民が審判に集められる

「そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼いが羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、」(マタイ 25:32)

審判は全天の出席のもとに行われる。なぜならこの審判で、神の政府の正当性が立証され、その律法は「聖であって正しくかつ善である」ものとして立つからである。そしてあらゆるケースが決定され、すべての者に判決がくだる。その時罪は魅力的には見えないで、その醜さの通りに見えるであろう。レビュー・アンド・ハラルド 1898 年 9 月 10 日

「そしてすべての国民をその前に集めて」……大小を問わずあらゆる行為があまりのままだに持ち出される。この地上ではささいなことだと思われていたことが、その時にはあるがままであらわれる。やもめのレプタ二枚が覚えられる。差し出された一杯の冷たい水、牢獄への訪問、飢えた者に食物を与えたこと、これら一つ一つが、それ自身の報酬をもたらす。そして果さなかった義務、利己的な行動は忘れられることはない。神のみ座の周りでは、その行為がなされた時に思ったこととは非常に違うことがあきらかになる。……これらの利己的な快楽や放縦が人間を、神を愛するよりも快楽を愛する者にしてしまったことがわかる。……しかし誰も欺かれる必要はない。私たちが良くても悪くても、キリストに従ってこの方と共にいるという立場を完全にとっているなら、私たちは欺かれることはない。レビュー・アンド・ハラルド 1899 年 9 月 5 日

私たちが今あらわしている品性は、将来の運命を決定している。天国の幸福は神のみ旨に一致することによって見出されるのであり、人が天の王家の一員となるなら、天国はこの地上で始まっているのである。……正義はあらゆる恵み、またあらゆる尊く清められた能力を天上の法廷に取り入れ、地上を天国に変える。神は誰が忠実で、地上におけるご自分の王国の真の臣民であるかを知っておられる。だから、神のみ旨を、天で行われているように地上で行なう者は、天の王家の一員とされるのである。レビュー・アンド・ハラルド 1895 年 3 月 26 日

命の冠を受ける

「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。」(ヤコブ 1:12)

主がご自分の宝石を集められる時、真実な者、率直な者、正直な者を喜びをもってご覧になる。天使はそのような人々のための冠作りにたずさわる。そしてこの星の飾りがついた冠の上には、神のみ座から発する光が明るく輝いて反射している。教会への証 5 巻 96

天の事柄について話さない。イエスのこと、その麗しさと栄光を、そしてあなたに対する永遠の愛について語りなさい。そして、あなたを救うために死なれたお方への感謝の気持ちと愛で、あなたの心があふれるようにしなさい。ああ、平安の内に、あなたの主にお会いする準備をしなさい。準備のできている人々は、間もなく朽ちることのない命の冠を受けて、キリストと共に、天使やキリストの尊い血によって贖われた人々と共に、神のみ国で永遠に住むであろう。ユース・インストラクター 1852 年 12 月

栄光と誉れと不死を授けられるのは、待っている人々である。あなたは世の誉れや偉大な人々についての称賛を……語る必要はない。それらはみな空しいものである。神の指が触れるだけでそれらはすぐに元のチリに帰ってしまうものである。私は、いつまでも続くもの、不滅のもの、決して滅びることのないものを大切にしたい。かつて君主の額を飾ったどの王冠よりも立派な冠を大切にしたいのである。ビュー・アンド・ハルト 1869 年 8 月 17 日

その日贖われた者はみ父とみ子の栄光で輝き出る。金の堅琴をかなでながら天のみ使いたちは王とその方の勝利の記念品である人々、すなわち小羊の血で洗われて白くされた人々を歓迎する。勝利の歌が全天に響きわたる。キリストは勝利された。このお方は贖われた者、すなわちご自分の苦難と自己犠牲の使命が無に帰さなかったという証である人々を伴って天の宮廷に入られる。ビュー・アンド・ハルト 1904 年 11 月 24 日

大勢の群衆が神の都に入る

「その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち、」(黙示録 7:9)

各地に散在する地の住民のなかには、バアルにひぎをかがめない者がある。夜だけ現われる空の星のように、これらの忠実な人々は、暗きが地を覆い、やみがもろもろの民を覆うときに輝き出るのである。異教のアフリカ、ヨーロッパ、南米のカトリックの国々、中国、インド、海の島々、地のあらゆる暗黒の隅々に、神は、なお、暗黒のただ中に輝き出る選ばれた人々の星空を保っておられる。彼らを通して背信した世界に、神の律法に従うとき得られる人格を改変する力を、明瞭に示しておられるのである。彼らは今でさえ、あらゆる国民、国語、民族のなかにあらわれている。そしてサタンが、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に」、違反者は死刑に処すると言って、偽の休日に対する忠誠のしるしを受けさせる最も暗黒な時に、これらの忠実な人々は、「責められるところのない純真な者となり……傷のない神の子」として、「星のようにこの世に輝いている」。国と指導者上巻 156,157

間もなく壮麗な再会があることを覚えていよう。永遠の命と神の都が私たちの前にある。神のみ使いたちがいるであろう。キリストもそこにおられるであろう。原稿 101,1908 年

都の門はきらめくちょうつがいを開き、真理を保った人々はその中に入る。一人一人の頭に冠が被せられる。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世のはじめからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」という言葉が語られる。その御国は誰のために用意されているのだろうか。それは、従順な者、神の戒めを守り、そのみ旨を行う者のためである。……聖天使が豎琴にふれると、主は、あなた方が神の都の中へ、勝利の歌を歌いながら従ってくることを望まれる。原稿 113,1908 年

御国を受け継ぐ

「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受け継ぎなさい。」(マタイ 25:34)

神の民に私たちが親切にしたすべての行為は、神ご自身になされたものとして報いを受ける。

最後の清算の日に、キリストは人々の前に、彼らを贖うためにご自分の命を与えられたという大いなる働きを示さずに、人々がご自分のためになした忠実な働きを示される。これは何という驚くべき愛であろうか。このお方は異教徒の働きですら挙げられる。この人々は主の律法について聡明な知識を持ってはいないが、自然の事柄を通して語られる声に聞き従って、律法が要求するその事柄を行った者だからである。聖霊がその未開の人の心にキリストの精神を植えつける時、この人が神の僕に好意をあらわし、心にある同情心が活気づいて、彼は自分の生まれつきの性質や、またその受けた教育に逆らう、暗くされた心に働きかける神の恵みは、人間の知恵によっては教えることのできない未開の人の性質を和らげたのである。

キリストが未開の人の心にご自分の恵みを植えつけると、この人は真理と命のみ言葉を聞いて悟る前ですら、宣教師の必要に奉仕する。神の僕に害を加えるために集められた群衆を見なさい。しかし主はご自分の僕のために嘆願するよう、恐らく誰かの心に働きかけておられる。だから敵意を持つ会議がクリスチャンの命を取る決定を下すその時、その未開の人のとりなしが決定をくつがえし、そのクリスチャンの命は助かる。ああ、この一つの行為のために、その未開の人に対して流れ出るその愛よ。そのような人に対してキリストは審判の場で、「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである」。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」と仰せになる。
ビュー・アソド・ハルド 1898年9月20日

命の木の実を食べる

「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう。」（黙示録 2:7）

主がまもなく来られると考えて、私たちは品性を神のかたちに形造るにあたって、どれほど熱心でなければならないことであろうか。……

「わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり終わりである。いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門を通して都にはいるために、自分の着物を洗う者たちはさいわいである。」この言葉は努力する価値のないものだろうか。私たちが天国を失うなら、すべてを失うのであり、私たちのうち誰もそのようなことはできないのである。私たちが、勝利者を待っている永遠の喜びを視野に入れ続けるなら、そして品性の完全のために努力する時キリストを信頼し続けるなら、自分は不幸せだとあなたは思うだろうか。キリストの克己と奉仕の模範に習うことが私たちを不幸せにしなければならないのだろうか。……

私たちは神の命で量る命を求めている。それだから私たちの性質は神のみ旨に調和するよう、屈服させられねばならない。神に私たちの必要を申し上げ、神がこれを聞いて、み言葉の原則を実行するために、恵みと力を与えて下さることを信じて、確信をもって神のもとへ行き、み前に心を開くという生涯の働きを、私たちはしなければならない。私たちが望むものは天国であり、勝利者の冠、門を通して神の都に入ること、神のパラダイスの中央にある命の木の実を食べる権利である。私たちは美しい王にお目にかかりたいと願っている。だから、日毎に人としての品性の完全を持っておられるキリストに私たちの目を据え続けよう。そうすればキリストの神性をしっかりとつかみ続けることによって、私たちはあらゆる悪の傾向と欲望を克服するために、私たちを助ける天の力を得るであろう。原稿 87,1909 年

私の命のために神に感謝する。……私には将来を見渡し、命の木を見る信仰がある。その木には尊い果物がなり、その木の葉は人々を癒す。栄光のみ国にはもはや失意も悲哀も罪もなく、悲しみも苦しみもない。ビュー・アソッド・ヘラルド
1884 年 12 月 23 日

諸国民を支配する権威を持つ

「勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける。」（黙示録 2:26）

「行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう」と弟子たちに約束されたのは、主ご自身であった。弟子たちの寂しさと悲しさを思って、天使たちに、自分は天に昇っていったのと同じありさまでまた来るという保証を与えて彼らを慰めるよう命じられたのは、あわれみ深い救い主であった。弟子たちが、愛する主の最後の姿を見ようとして、天をみつめて立っていると、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」という言葉に注意をひかれた。弟子たちは、天使の言葉によって、新たな希望を抱いた。彼らは、「非常な喜びをもってエルサレムに帰り、絶えず宮にいて、神をほめたたえていた」。彼らが喜んだのは、イエスが彼らを去り、残された彼らが世の試練や誘惑と戦わねばならなくなったからではなくて、天使が彼らに、主はまた来られるという保証を与えたからであった。

今日、キリスト再臨の布告は、天使たちがベツレヘムの羊飼いたちに告げたときのように、大きな喜びの知らせでなければならない。救い主を真に愛する人々は、聖書に基づいた告知を、喜びをもって叫ばないではおられない。永遠の生命という彼らの希望の中心であられる主が、初臨の時のように嘲笑され、侮辱され、拒否されるためではなくて、力と栄光のうちに神の民を贖うために、また来られるのである。各時代の犬争闘下巻 29,30

福音は征服から征服へ勝利から勝利へと前進しなければならない。全天下の国々の権威は、いと高き者の聖徒たる民に与えられる。そして、聖徒たちは永遠にわたってその国を自分のものとする。教会への証 9 巻 219

終りのない生命を与えられる

「勝利を得る者は第二の死によって滅ぼされることはない。」(黙示録 2:11)

「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」。義人の嗣業は生命であるが、悪人が受けるものは死である。モーセは、イスラエルに次のように宣言した。「見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災をあなたの前においた」。この聖句の中で言われている死は、アダムに宣告された死ではない。なぜなら、全人類が彼の罪の報いを受けているからである。永遠の生命と対照されているのは、「第二の死」である。

アダムの罪のために、死は全人類に及んだ。だれでも同じように墓に下って行く。そして、救いの計画が設けられたことによって、すべての者が、墓からよみがえらせられるのである。「正しい者も正しくない者も、やがてよみがえる。」「アダムにあつてすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあつてすべての人が生かされるのである」。しかし、よみがえらせられる二種類の人々は、はっきりと区別されている。「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」。復活に「あずかるにふさわしい」者たちは、「さいわいな者であり、また聖なる者である。」「この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない」。しかし、悔い改めと信仰によって許しを受けなかった人々は、罪の刑罰すなわち、「罪の支払う報酬」を受けなければならない。各時代の争闘下巻 294,295

「サタンは根であつて、彼の子供たちは枝である。彼らは、今、根も枝も焼き尽くされた。彼らは永遠に死んだのである。彼らは復活することはない。そして、神は、清い宇宙を持たれるのである」と天使は言った。……そして、贖われたすべての人々は、老いも若きも、大なる者も小なる者も、彼らのきらめく冠を贖い主の足もとに投げ出して、彼の前にひれ伏して彼をあがめ、永遠に生きておられるかたを礼拝した。栄光に輝く美しい新しい地球は、聖徒たちの永遠の嗣業であつた。初代文集 474

ふさわしい者であるから、白い衣を着て歩む

「しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。」(黙示録 3:4)

勝利者として私たちが「白い衣を着」る時、主は、初期のキリスト教会の時代のように私たちの忠実さを、「その衣を汚さな」かった人が「サルデスには数人いる」とお認めになる。そして私たちは、主の贖いの犠牲を通して価値ある者とみなされ、白い衣を着て主と共に歩みを続けるのである。……

これらの励ましの約束を思って、私たちは、神のみ子のみ前に立つことのできる品性を完成するために、どれほど熱心に努力すべきであろうか。このお方が「力と大いなる栄光」をもってあらわれる時、そのご臨在の栄光に耐えることができるのは、その義の衣でおおわれている者だけである。

勝利を得る者ということは大きな意味がある。サタンと全悪天使の策略には強く抵抗しなければならない。私たちは毎瞬間用心していなければならない。一瞬といえどもキリストと、試練の時に助けるその力を見失ってはならない。この方の強力な力によって支えていただくことができるように、私たちの手をこの方にあずけなければならない。ビュー・アンド・ハルド 1908 年 7 月 9 日

あなたがキリストの食卓について、小羊の婚宴のために用意された晩餐にあずかるのであれば、あなたは特別な上衣、キリストの義の白い衣である礼服を着ていなければならない。この礼服を着ている者はみな神の都へ入る資格がある。だからもしイエスが、ご自分を愛する者のために用意に行かれた住居に、あなたが場所を占めるべきであると、この方が本当に切望されなかったとしたら、これほどの大きな犠牲を払って、あなたが幸せになり、ご自分の食卓に座って、贖われた家族のために御自分が用意に行かれた家庭を楽しむことができるようにと、これらすべての準備をなさるはずはないのである。ユース・インストラクター 1886 年 8 月 11 日

み父に紹介される

「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。」(黙示録 3:5)

「勝利を得る者」という表現は、私たち一人一人に何か勝利すべきことがあることを指摘している。勝利者はキリストの義という白い衣でおおわれているだけでなく、彼については「わたしはその名をいのちの書から消すようなことを決してしない。またわたしの父と御使いたちの前でその名を言いあらわそう」と書かれている。ああ、勝利者になるということ、また救い主ご自身によって、み父の前に私たちの名前が紹介されるとは、何という特権であろうか。ビュー・アノド・ヘルド 1908 年 7 月 9 日

この約束にはなんという尊い保証が含まれていることか。私たちが神の息子、娘になりたいと思うようになるために、これ以上何をなさることができるだろうか。だれが武具を身につけるのだろうか。だれがインマヌエルの君の血染めの旗のもとに集まるのだろうか。……苦闘し誘惑を受けている神の子がみな、闇の力との争闘で失敗する必要はなく、あらゆる戦いに勝利者となるために、神の励ましが与えられている。

ユース・インストラクター 1894 年 9 月 6 日

キリストの義というしみのない衣は、試練を受け、誘惑され、なお忠実な神の子らをおおう。……彼らの名は小羊の命の書に記され、永遠にわたって忠実な人々の中に登録される。彼らは欺瞞者の策略に抵抗し、龍のうなり声で、自分の忠誠をひるがえしたりはしなかった。今彼らは永遠に誘惑者のたくらみにも安全である。……残りの子らはただ許され受け入れられるだけでなく名誉を受ける。「清い帽子」が頭に被せられる。彼らは神に対して王となり祭司となる。サタンがこの群れを滅ぼそうとして告発を続けている間、目には見えない聖天使たちが、行き交い、生ける神の印を彼らに押していた。この人々が、額にみ父の名が書かれており、小羊と共にシオンの山に立つ人々である。教会への証 5 巻 475,476

神の聖所における柱とされる

「勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう。彼は決して二度と外へ出ることはない。そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。」(黙示録 3:12)

どの人にとっても唯一の希望はイエス・キリストを通してである。……純潔で清い着物は、都の門を入った後で、誰かに着せてもらうよう用意されているわけではない。入る者はみなキリストの義の衣を着ており、神のみ名がその額に見える。この名は使徒が幻で見たしるしであり、神の戒めすべてに知性をもってまた忠誠を尽して従うという心の従順を示している。ユース・インストラクター 1886 年 8 月 18 日

私たちが経験している争闘はこの世における最後のものであり、私たちは今そのただ中にいる。二つの派が主導権を求めて争っている。この戦いに私たちは中立でいることはできない。どちらかの側に立たなければならないのである。私たちがキリストの側につくなら、世の前で、言葉にも行動にもこのお方を認めるなら、自分が仕え、あがめることを選んだお方について生きた証になっている。地上歴史のこの重要な時期に、私たちは自分がどちらの側にいるかを不確かなままに放っておくようなことはできない。

敵のあらゆる策略を破って勝利を得るために、私たちは自分自身を越えた、手の届かないところにある力をしっかりとつかまなければならない。私たちは、信仰とへりくだりという態度を持ち続けるすべての魂に、勝利を与える力を持っておられるお方、キリストと生きたつながりをたえず持ち続けなければならない。……勝利者の報いを受けることを希望する者として、私たちは、前進するごとに反対に会うけれども、クリスチャンの闘争で押し進んで行かななければならない。……勝利者として、私たちは天の宮廷でキリストと共に統治する者となり、小羊の血と私たちの証の言葉を通して勝利する者となる。「勝利を得る者をわたしの神の聖所における柱にしよう。」ビュー・アンド・ヘラルド 1908 年 7 月 9 日

キリストと共にみ座に座る

「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」（黙示録 3:21）

このみ言葉の中には私たち一人一人のための個人的な働きが描かれている。私たちはキリストが勝利されたように勝利するために、断固とした努力をしなければならない。この戦闘を免除される者はいない。もし私たちのために聖都の門が開き、王をその麗しさのうちに見るとすれば、キリストが勝利を得られたように、私たちも今勝利を得なければならない。……このお方は王衣と栄光の富を捨て……私たちのために貧しくなられた。それは私たちが不死の嗣業を得ることができるためであった。私たちのために、この方は闇の君に会い勝利された。……

自制心についての教訓は母親の腕の中にいる幼児の時に始めるべきである。子供に服従をしなければならないことを教えるべきである。……どなたが私たちにこの子たちの世話をまかされたのであろうか。子供たちは主の家族の年若い一員なのである。「この子供たちを連れていって訓練しなさい。……そうすれば宮殿のかたちにしたがって、磨かれ、私の家の宮廷の中で輝く準備ができるであろう」と、主は仰せになる。なんという重要な働きであらうか。……あなたの働きには宇宙の創造主が助けを与えて下さることを覚えていなさい。このお方の力強さのうちに、またそのみ名を通して、あなたは子供たちを、勝利者へと導くことができる。この子たちに、力を求めて神に頼るよう教えなさい。このお方が祈りを聞いてくださることを教えなさい。善をもって悪に打ち勝つよう教えなさい。気高く崇高な感化を及ぼすよう教えなさい。この子たちを神と結びつくよう導きなさい。そうすれば最も強い誘惑にも抵抗する力を持つようになる。彼らはその時勝利者の報いを受けるのである。ビュー・アンド・ハルド 1901年7月9日

あなたはキリストの生涯を非常に熱心にまた注意深く学ばないことにより、多くのものを失う。あなたは……しみのない品性という尊い白い衣を勝ちとることができ、神のみ座の前に、ついには傷のない者として立つことができるという……あなたが得なければならない勝利をそこで見ることができる。ユース・インストラクター 1883年10月10日

すべてを受け継ぐ

「勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子（娘）となる。」（黙示録 21:7）

すべてのものを受け継ぐためには、罪に抵抗して勝利しなければならないのである。各時代の斗争闘下巻 290

私たちが神の戒めを守るなら、主にあつて喜びを持つことができる。私たちが本当に天の市民権と、不死の嗣業、永遠の富を持っているなら、愛によって働き、魂を清めるその信仰を持つ。……私たちは天の家族、天上の王の子、神の相続人、キリストとの共同相続人である。この方の来臨のさいには朽ちることのない命の冠を得る。ユース・インストラクター 1898 年 8 月 25 日

天の大君は、あなたが神の命に比べられる永遠の命によって、その方と共に住むのにふさわしくするために、あなたを気高く、心広く、高めることのできるあらゆるものを、あなたが所有しました楽しむことを望んでおられる。来るべき生活はどれほど素晴らしいことであろうか。それを所有するとはなんと喜ばしいことであろう。人にあらわされた神の愛はなんと広く深く計り知れないものであろうか。教会への証 3 巻 458

神の子に与えられる特権には限りがない。すなわち全宇宙と墮落したことの無い世界の隅々にまで、すべての者の心にあがめられ、あらゆる舌に賛美されるお方、イエス・キリストと結びつくということ、神の子であるということ、その名を帯びること、王家の一員になるということ、インマヌエルの君、王の王、主の主の旗の下に並ぶということが特権である。ユース・インストラクター 1886 年 10 月 20 日

神のみ子は万物の相続者であり、この世の国々の主権と栄光はこのお方に約束されたものであった。……キリストがこの世におられた時ですら、そうであった。だからこのお方に従う者もそうである。彼らは神の息子、キリストとの共同相続人であり、国と主権は彼らに属する。教会への証 1 巻 286, 287

このお方は服従の生活のために、この世の代わりに、全天のもとにある王国をあなたにお与えになる。あなたに永遠の栄光の重みと、永遠に続く命をお与えになる。教会への証 2 巻 44

Good Way Series 研究 3-7



キリストが 戸をたたいておられる (Ⅶ)

IV- 闘争のない改革？

現在もっとも流行している仮説の一つであり、正直な SDA 信徒でさえ心にいだいているものは、預言された改革運動は、まったく分裂がないという特徴があるというものです。そのような意見は、例えば、最終的な危機のための準備という書籍 29 ページの中に見られます。この考えは、明らかに教会への証 8 巻 251 の誤った解釈です。

預言の霊は、反対に、多くの闘争と論争が、残りの教会、すなわち預言された改革運動である「かつての兄弟たち」の群れの運命となると述べています。事実、預言の言葉は、改革の働きにたずさわっている人々の間に起こる争いには二つの分野があることを述べています。

(1.) 止むことになる争闘、そして (2) 継続することになる争闘です。この争闘の二番目の分野は今後、歴史という光の中で、それ自体くり返すものとみなされることになります。

1. 使徒たちの時代に

初期クリスチャン教会では、兄弟たちの間で、ある野心的で自信に満ちた指導者によって大いに問題が引き起こされました。

「これらの人々は、独断でみわぎに携わっているという態度をとり、しきりに激しくつぶやき、あらを探し、新しい計画を持ち出して、福音使命を伝えるよう神から任命されていた人々の働きをくずそうとした。教会は最初からそのような障害に会ってきたのであるが、これは、今後も常に、終わりの時まで続くであろう。」
(患難から栄光へ上巻 212 [強調付加])

「世の終末に至るまで、真の神の代表者であると主張する人々の中に、混乱と反逆を起こそうとする人々が起こる。偽りを預言する者たちは、人々に罪をささいな事のように考えることを奨励する。彼らの悪行の恐ろしい結果があらわれると、彼らは、ユダヤ人が彼らの災害をエレミヤのせいにしたように、できることならば彼らが陥った苦境の責任を、忠実に彼らを警告した者のせいにしようとするのである。」(国と指導者下巻 60)

2. SDA の先駆者たちの時代に

SDA 教会は同様の困難をメッセージの初期の時代に経験した。そのとき、ホワイト姉妹は次のように記した、

「墮落した心を内に持っている個人個人のために、神のご不興が教会の上にもたらされている。彼らは神も自分の兄弟も彼がそこにいることを望んではいないときに、先頭にいたいと望む。利己心と有頂天が彼らのたどる道の特徴づけている。今、自分と同類の人々で行って牧場を見つけるような場所が、すべての人のために開かれている。そしてわたしたちは神が憐れみのうちに彼らを教会から取り除かれたために、このお方をほめたたえるべきである。」(教会への証 1 巻 122)

「神はご自分の民をふるいにかけておられる。このお方は清い聖なる教会をお持ちになるであろう。…神の民と共に生きることのできない墮落した民が起ってきた。…わたしたちはみな教会を救うための道が開かれてきたために、神に感謝する理由がある。なぜなら、神の怒りは、もしこれらの見せかけの者たちがわたしたちと共に残っていたならば、わたしたちの上に下ったに違いないからである。…わたしたちには、この問題において恐れることは何もない。裁きが近づくにつれ、すべての者がその真の品性を現わし、そして彼らがどちらの群れに属するのかが明白になるのである。ふるいは動いている。神よ、そのみ手をとめてくださいと言わないようにしよう。教会は清められなければならないし、きよめられるのである。」(教会への証 1 巻 99, 100)

3. わたしたちの時代に

クリスチャン時代の神の民の歴史を研究するとき、これらの困難が、教会の最高の時代にさえ起こることを見出すのです。彼らはパウロの時代に、ルターの時代に、ウェスレーの時代に、SDA の先駆者たちの時代に現われました。そし

て預言の霊は、わたしたちの時代にもまた、わたしたちが「悔い改めと改革の働きを真剣に始める」ときに、サタンは再び、同じ困難を持ち込み、「自分の援助のために自分の王国のすべての墮落天使を召す」であろう」（各時代の争闘下巻 101-105〔強調付加〕）。これは新しい状況ではなく、わたしたちが作り出したものではありません。これは実際古い問題であり、ルシファーが天で始めたものであり、地上で欺瞞の働きを継続するときに、人はキリストかサタンかの立場をとるにすぎません。改革のメッセージを適切に理解してきた人、そして真の改革者になりたい人は、決してこの問題において混乱させられることはありません。残りの教会は厳しい戦いを経なければならないのです。

「キリストが天の雲に乗って、力と大いなる栄光を伴って現れるとき、人は霊においてゆがみ真理から作り話に向きを変えるようになる。教会は、この先悩みの時を見なければならない。教会は荒布をまとうて預言するようになる。しかし、異端と迫害にあわなければならないにもかかわらず、つまり無神論者は背教者と戦わなければならないにもかかわらず、なお神の助けによって、教会はサタンのかしらを砕いているのである。主は、鋼のように真実で、みかげ石のように堅固な信仰を持つ民をお持ちになるであろう。」（教会への証 4 巻 594）

働いており、いつも不親切でいやなことをほのめかし、いつも問題を引き起こしては友だちを離れさせます。

「善悪を知る木」について彼がほのめかしたことで、エバの好奇心がうまれました。そのときまで、彼女は悪ということについて、何も知りませんでした。彼女はサタンがその言葉を話したとき、どういう意味だろうと自問したかもしれません。悪とはどんなものだろう？そのとき、彼女はそれを探ってみるのはとてもすてきなことだろうと考えました。

それはいつも危険です。それは問題と悲しみへいたる道の第一歩です。わたしたちはいつも、何か悪いことはどんなふうに感じるものか、どんな味がするのかを知ろうというほのめかしに対して見張っている必要があります。悪を知ろうとすべきではありません。そのような知識は知らずにいる方がはるかに良いのです。だれひとり黒色を知るために、タールのバケツに手をつこんでみる必要はありません。

少しずつ、エバはサタンのわなにかかっています。最初は神さまの言葉を疑うところからでした。そのあと、神様に従わなくても、たいしたことではないかのように思えました。そうして、彼女は禁じられた実をさわってみる用意ができました。

ついに誘惑は彼女がたえられないほどに大きくなりました。彼女は自分の手を伸ばして、その実を取り、そしてそれを食べました。味はこのまじいものでした。彼女はなぜそんなにながためらっていたのだらうと思いました。たしかに、あのへびがぜんぶ正しかったにちがいない。神さまが、こんなにすてきな実をずっと食べさせずにおくなんてことはあり得ない、と。

彼女はもっと実を集めて、それをアダムへ持っていき、何が起こったのかを説明しました。そして、「彼も食べた」。

れんこん餅

11 月が旬のれんこんです。

■材料（2 人分）

れんこん（大）	1 節（約 300g）
塩昆布（ごはん混ぜるタイプ）	大さじ 2
小ねぎ	適量
片栗粉	大さじ 1
ごま油	適量

■作り方

1. れんこんは皮をむいてすりおろし、かるく水けを絞る（180 ～ 200g になる）。ボールに入れ、片栗粉、塩昆布を加えてさらに混ぜます。
2. 直径約 18cm のフライパンにごま油を強めの中火で熱し、【1】を流し入れて丸く形を整えます。2 ～ 3 分焼いて裏返し、中火にして 2 分ほど焼きます。
3. 小ねぎはみじん切りにします。
4. 食べやすく切って器に盛り、小ねぎを混ぜてのせていただきます。お好みでしょうゆ等をかけてください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第7話

愛のテスト(1)

エバがへびの柔らかく語る言葉を聞きながら、「善悪を知る」木のそばに立っていると、最初の疑いが彼女の思いに入り込んできました。

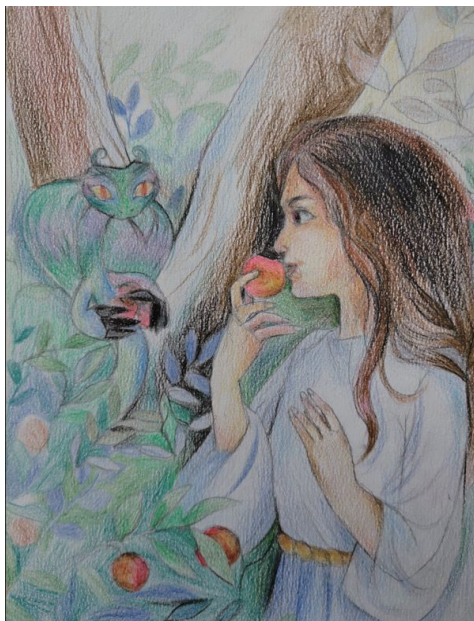
神はもし彼女がこの木から食べると死ぬと言われました。今へびは死なないであろうと言いました。だれが正しいのでしょうか。神が真実をお語りにならないということがあり得るでしょうか？

彼女がこのことを考え終わったところで、へびはもう一つの悪い考えをもって続けました。彼は、「それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」と言いました。

こうしてへびは、神が彼女とアダムに対して不当なことをし、彼らのもの

を与えずにいるのだとほめかしました。また神さまが彼らを嫉妬(しつと)して、彼らも神さまと同じくらいかしくなることを恐れているのだというずるい暗示(あんじ)もありました。

神さまがこれほどまでアダムとエバに良くしてくださったときに、このようなことを言うとは、へびはとてもよこしまで、卑劣(ひれつ)でした。しかし、サタンがこのような者なのです。彼はいつも神さまに敵対して



(41 ページに続く)